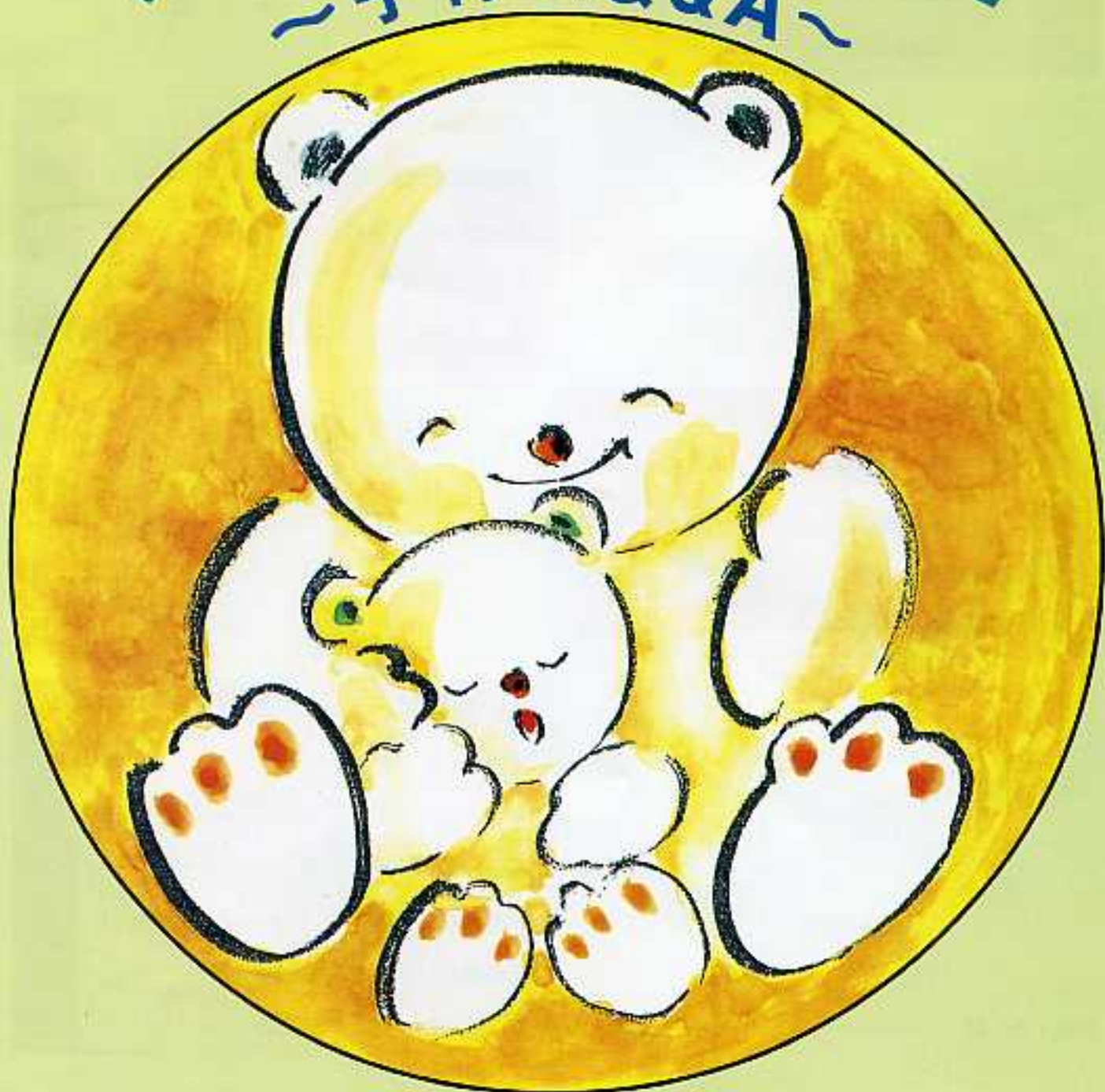


あこやか ばんざい

～子育てQ&A～



岩手県教育委員会

もくじ

はじめに.....1

あひまのあひま

あんよはじようず.....2

おっぱいを離す.....3

おなかの中のあかちゃん.....4

さようなら、おむつ.....5

三つ子の魂って？.....6



子防接種.....7

身の回りに潜む危険.....8

アトピー性皮膚炎.....9

虫歯はだれの責任？.....10

指しゃぶり.....11

元気に育つ子

のびのび育つ子

絵本・テレビ・ゲーム.....12

「ことば」の始まり.....13

いっしょに遊ぼう.....14

らんぼう・なきむし.....15

早期教育.....16

こころの基地.....17

ほめる・しかる.....18

おじいさん、おばあさんの力.....19

家族、おとなり、近所.....20

保育園や幼稚園.....21

家庭教育ビデオ教材の活用を.....22

すこやかダイヤルを友達に.....24

たくましく育つ子

表紙・さし絵.....沼崎定子



はじめに

乳幼児期は、心身ともに大きく成長する時期です。乳幼児期の子どもへの接し方が、その子どもの生涯にわたる人間形成に大きな影響を与えていると言われています。平成8年7月に出された第15期中央教育審議会第一次答申においても、「家庭教育は、乳幼児期の親子のきずなの形成に始まる家族とのふれあいを通じ、「生きる力」の基礎的な資質や能力を育成するものであり、すべての教育の出発点である」とし、「子どもの教育や人格形成に最終的な責任を負うのは家庭である」と強調しております。

ところが、今日の急激な社会の変化は、核家族化や少子化の進行、父親の単身赴任等をもたらし、子育て中の親の生活にも大きな影響を与えるとともに、子どもたちの生活にも様々な影を投げかけています。近年、不登校やいじめ、無気力や思いやりのなさ、他人とのかかわりをもちたがらないなどの現象はどんどん低年齢化してきています。こうした子ども達の自立の遅れや心の荒廃は、今や社会全体に投げかけられた大きな課題といっても過言ではありません。

家庭は子どもにとって、「心の基地」ともいえる重要な場所です。家庭が明るく、なごやかな雰囲気であれば、それだけで「心の基地」となりうるのです。深い愛情に支えられた子どもは、たとえ挫折しても、立ち直り、またチャレンジしようとするでしょう。

子どもが日々成長するにつれ、「基地」としての家庭の役割も少しずつ性格を変えていきます。成長の時期に応じてどのような基地を創り出していくか、まず親自身が学ぶ心をもって、子どもとともに歩いてほしいと願っております。

この冊子は、皆様の子育てに少しでもお役に立つことを願い、作成したものです。日頃の子育てのヒントとして、また、子育てに不安や戸惑いを感じたときに何らかのお役に立つことができれば幸いです。

おわりに、本冊子の作成にあたり、原稿のご執筆やご指導をくださった委員の皆様にお礼を申し上げます。

岩手県立生涯学習推進センター

所長 谷地信子

あんよは じょうず

Q

うちの子は、もうすぐ満1歳の誕生日をおかえませんが、まだ歩けません。近所で同じくらいの子はとっくに歩き始めています。発育が遅れているのでは、と心配です。
(11か月半男児の母)



A

お誕生近くても赤ちゃんが一人歩きできないと、お母さんはちよつぱり心配になってきます。でも1歳6か月頃までに歩けば心配はいりません。はいはいやあんよなどの運動機能の発達は一人ひとり違います。赤ちゃんがひとり歩きするためには、まずつかまり立ち、つたい歩きなどの段階を踏まなければなりません。テーブル、タンスなどつかまれる物が身近にあるか見直してください。また人に手を握ってもらえば歩けるけれど用心深すぎたり、ちよつと怖がりだったりして一人歩きができないこともあります。

ワンポイントアドバイス

お母さんへ、くつ下が滑って歩きにくいこともあります。家の中ではくつ下をぬがせ、薄着を心がけてみましょう。いずれにしてもあせらず時期がくるのを待ってあげてください。気になる時には、かかりつけのお医者さんに相談するのもよいと思います。

うちの子は、もうすぐ2歳になるのですが、なかなかおっぱいを離しません。自然に離れるものと思って待っていたのですが、断乳するよい方法はないでしょうか。

(1歳8か月の女児の母)

Q

おっぱいを 離す



お母さんの腕に抱かれて満足そうにおっぱいを飲んでた赤ちゃんも5か月頃になると離乳食が食べられ、1歳頃には、ほぼ大人と同じものが食べられるようになります。その頃になると、おっぱいは甘えや心理的な安定の要素が強くなります。しっかりごはんを食べて、外でよく遊び、夜寝るときおっぱいを飲むというのなら心配いりません。「おっぱいは赤ちゃんが飲むものだよね。○○ちゃんはまだ大きくなったからごはんを食べようね。」とお母さんの言葉で話しかけ、納得させて無理なく離しましょう。

A

ワンポイントアドバイス

幼児期の食事

一生の食生活の基礎をつくるのは、離乳食から幼児期の食事であるといわれています。この時期に好ましい食習慣をつくるよう心がけたいものです。

- 1 食品は上手に組み合わせ、薄味でバランスのよい食事をつくりましょう。
- 2 おやつは食事の一部と考え、甘い菓子、飲みものに片寄らないよう、牛乳、芋類、果物など3回の食事では取りにくいものを取り入れましょう。
- 3 食事は楽しい雰囲気、ゆっくりよくかんで食べるようにさせましょう。

おなかの中の あかちゃん

Q

お腹の中の赤ちゃんは、お母さんの気持ちや語りかけがわかり、反応を示すことがあると聞きました。お腹の中の赤ちゃんにお母さんの気持ちが伝わるものなのでしょうか。

(26歳主婦 妊娠5か月)



ワンポイントアドバイス

口では子どもを欲しいと言い、胸の内では妊娠を喜んでいないような矛盾した感情が母親にある場合、母親から2つのメッセージを受けるため胎児の精神は混乱し、無気力になる傾向があるといわれます。母親の迷いのない信念が胎児を強く育てます。

夫と妻は互いにいたわり合い、幸せな夫婦であることが母体を安定させ、胎児に良い影響を与えます。

A

お腹の中の赤ちゃんの10か月は生まれてから必要な機能を発達させる大切な期間です。その間お母さんのリズムカルな心臓の鼓動で情緒を安定させます。

また、お母さんの感情や態度をかなり微妙に区別し、胎生6~7か月頃からそれに反応し始めます。

お母さんは心から赤ちゃんをかわいいと感じ、健やかな成長を願い、言葉をかけながらお腹を優しく撫でてあげてください。お母さんの慈愛に満ちた気持ちを赤ちゃんは敏感に感じ、信頼と愛着を抱いて快い成長を続けるのです。

3歳になるのになかなかおむつにさようならができて困っています。

紙おむつを使っているからでしょうか。

(3歳女兒の母)

Q

さようなら、
おむつ



紙おむつを使っていると、おむつによる不快感が育たずおむつになかなかさようならができないのではないかと、などと言われておりますが、必ずしもそうとは限りません。

布おむつとちがい、紙おむつの場合、どうしても取替えてあげる回数が少ないことがあります。

上手に利用して欲しいものです。あせらず、成功したらほめ、失敗しても「おしっこ出てよかったね」と、決しておこらないことです。個人差がありますので温かく見守り、自立への手助けをしてあげましょう。

A

ワンポイントアドバイス

紙おむつは、外出の時とか、上手な利用の仕方ならよいのですが、単に育児の手間が省けるからという理由で全てを紙おむつで…ということは避けたいものです。

赤ちゃんに語りかけながら、おむつがぬれていないかどうか、手を差しのべて肌をふれ、おむつをかえる時間を惜しまないこと、これが育児の第一歩でしょう。

三つ子の魂って？

Q

「三つ子の魂 百まで」ということわざは昔からいわれていることですが、それは具体的にいえば、どういうことなのでしょう。養育にあたる親は、どんな心構えが必要でしょうか。
(2歳半男児の母)



ワンポイントアドバイス

親子の間に「愛と信頼感」を育てるためには、親が子どもの相手になり、「愛の充電」（肌のふれあい、笑顔のふれあい、言葉のふれあい）を十分にしておきましょう。例えばひざに乗せる。頭をなでる。だっこする。おんぶする。手を握る。添い寝する。また笑顔で「目と目の見つめ合い」「語りかけ」など「ふれあい」を深め親子の絆を強めていくことです。乳児期に母親を中心とした、大人たちとのスキンシップなどによって、信頼感を身につけた子どもたちは、幼児期になると自分から物事をやりたがるようになります。

A

このことわざは、幼児期に培われた性格や性向は年をとっても変わらないということ。人間の基礎は幼児につくられ、そのあと容易に変わるものではないということをいっているのです。

乳幼児の生活の中心は、家庭であり、父母などによって行われるのですから、子どもにとって親の在り方が、なんといっても最も重要なことなのです。

乳児には、特に「愛と信頼感」を育てることが人格の形成上から大切であるし、幼児期には「自立心」を子どもの中にしっかり育てていきたいものです。

予防接種

Q

ポリオの予防接種について質問します。
 ちょうど接種の日に熱があり、下痢気味だったためワクチンを受けられませんでした。ポリオにかかるとはでしょうか。他のワクチンもまだやっていません。

(10か月女児の母)



予防接種をしていないとポリオにもかかる可能性があります。しかし実際に日本では近年患者は出ていません。従ってすぐにポリオになる心配は不要です。春と秋に集団接種されますので広報に目を通しておいて下さい。

いろいろなワクチンの接種計画はかかりつけの小児科医や、健診の際、育児相談の場でアドバイスをもらいましょう。母子手帳の予防接種のページに予定を鉛筆で記入しておくのも良いことです。何かと延び延びになって病気になり後悔することも多いようです。

A

ワンポイントアドバイス

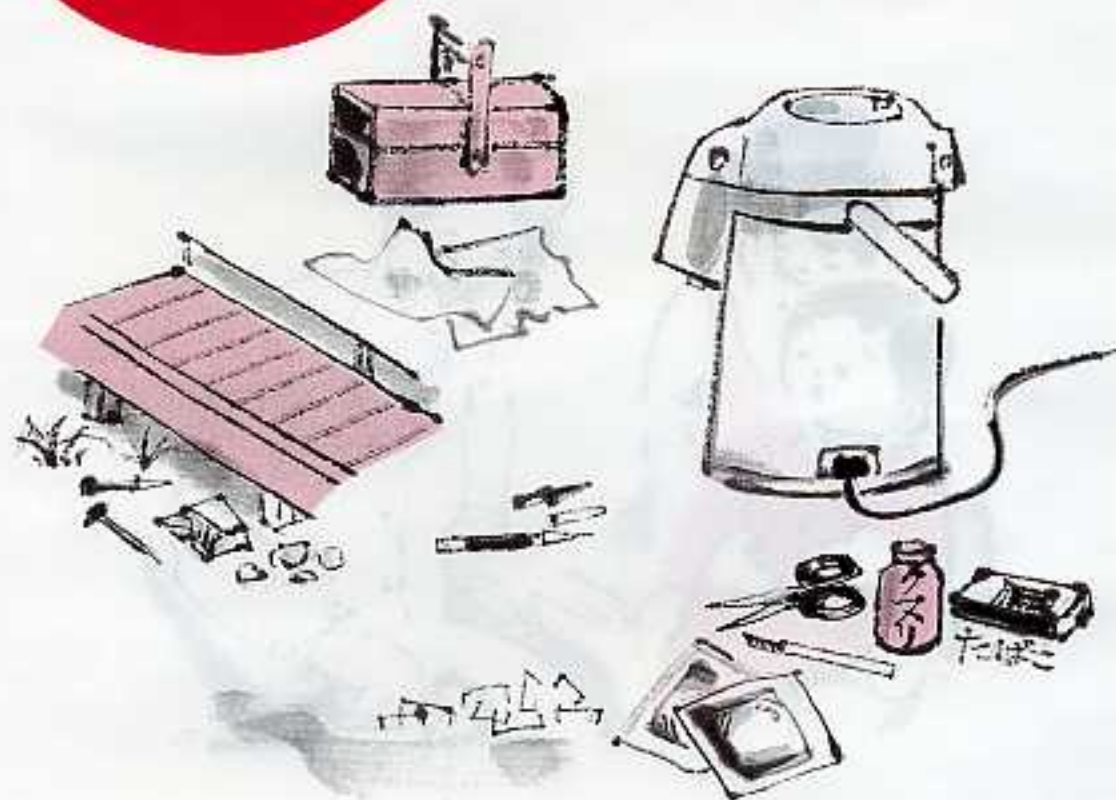
良いワクチンとは①重症になったり、後遺症を残すことのある病気に対するもの。②効果が充分あり、③副反応のないものでしょう。ポリオやBCG（結核ワクチン）はほぼこの条件を満たしています。ポリオはもう少しでこの地球上から撲滅できる所にきています。ワクチンのおかげです。三種混合（百日咳、ジフテリア、破傷風）、ハシカ、おたふくかぜ、風疹、水ぼうそう、日本脳炎など……いずれも自然の病気になるよりはずっと軽くすんでしまいます。やはり予防接種が有利です。

身の回りに 潜む危険

Q

先日、ポットの熱湯が赤ちゃんの手にかかってしまいました。急いで水で冷やしていただいた熱傷にはなりませんでしたが、もっとひどかったらと思うとぞっとします。事故に対する注意などどんなことが大切ですか。

(2歳男児の母)



ワンポイントアドバイス

やけど、水の事故、交通事故、窒息、誤飲、いずれもほんの一瞬です。「目を離さない。手を離さない。心を離さない。」はふだんからの心掛け。しっかり身につけること。こうしてやさしいお母さん、よいお父さんになり、家族のみんなで子どもたちを守りましょう。乳児の死亡率も下がり、病気にも強くなってきた子どもたち。しかし事故で生命をおとしたり、後遺症をのこすケースが少なくありません。保護のもと、事故にまきこまれないしつけや訓練にも心がけたいものです。機会があれば人工呼吸法も知っておきましょう。

A

そうです。すぐに水で冷やして下さい。ゆるやかな流水がよく、十分に冷やせば、痛みも楽になります。いかに早く、長く冷やしたかで、治るまでの期間や、後遺症の重さも変わります。赤みがはっきりしている時は医師に見せましょう。

事故は治療よりもともかく予防が第一です。タバコ、クスリ、コイン、ボタン電池、ピンなど家や身のまわりには危険な物が一杯です。子どもの目の高さで常に点検、かたづけを心がけましょう。家庭の風呂や整理ダンスの上にも注意を向けましょう。

2歳の男の子です。手、足、身体に湿疹が多くて困っています。アトピー性皮膚炎といわれました。何かアレルギーが関係あるのでしょうか。予防や治療はどのようにすればよいのでしょうか。

(2歳男子の母)

Q

アトピー性 皮膚炎



皮膚表面の保護層を守る。汗、ほこり、土、乾燥、掻きキズは湿疹を悪化させます。また硬い布で頬ばんにふくのは皮膚表面を削り荒します。ぬらした柔らかい紙か布で清潔を保ちます。必要に応じて安全性の高いクリームで保護するのも一法です。

軽いうちにまめに手入れする。軟膏は2種類。ステロイド入りと、入らないものを医師の指示で使いわけすることも大切です。体質改善の薬も時に効果を発揮することがあります。よく相談し根気よくスキンケアをいたしましょう。

A

ワンポイントアドバイス

湿疹の要因は子どもの体質、食事の内容、遊びの種類、季節、家のまわりの環境、疲れや年齢など千差万別で治療は一人ひとり違います。アレルギーの原因も卵、ハウスダスト、ダニなど。また、これを時には細菌やカビが悪化させることもあり、いずれも必ず医師の検査や指導に基づいて下さい。悪化因子をみつけるには食事、生活表をつけるのも一法です。食事は原則として特定のものを多量にとるのではなく、多種類を少しずつ、よく噛んで頂きましょう。離乳食は早すぎぬよう。ことに“好きだから多く”は避けることが大切です。

虫歯はだれの責任？

Q

歯科検診の時に、汚れていると注意を受け、虫歯を防ぐには歯みがきが基本だと言われました。大人のまねをして歯みがきはするのですが、仕上げ磨きになると抵抗されて困ります。
(2歳男児の母)



ワンポイントアドバイス

子供にとっておやつは楽しみのひとつです。甘いものに片寄ることなく、一日の食事の一部と考え、3回の食事で足りないものを補う意味で与えたいものです。①時間と量を決め、だらだら食べない、良い生活リズム(寝る、起きる、遊ぶ、食べる)が早くとれるよう。②市販の袋菓子は味が濃く、添加物混入、歯に粘着しやすいので控えめに。③食べたらブクブクうがいや、水、番茶を飲む習慣を。

A

歯磨きは習慣づける事が一番です。ゴシゴシこすられて痛い思いをしたり、遊びの最中に無理にさせられたりということがないように注意しましょう。お田さんの声かけで一緒にしたり、歯磨きの大切さを書いた絵本などを利用し興味を持たせるのもひとつです。

“仕上げはお田さんネ”と声をかけて、膝の上に寝かせて、痛くないよう、手早く、磨いてあげます。子供にとってもお田さんとすごせる楽しい時と思えばしめたもの。また、乳歯の虫歯は初期には見えにくいので、定期的な歯科検診も心がけて下さい。

共働きでこれまでは祖田が日中世話をしてくれていましたが、満3歳になりこの4月から保育所に通わせました。ところが最近指しゃぶりがとても多くなったようで、テレビなどを見ている時も指をしゃぶっています。
(満3歳女児の母)

Q

指しゃぶり…



離乳、歩行、生活習慣の自立……と子どもは次第に親から離れるようになりますが、この過程で子どもの心は親に甘えたい気持ちと自立したい気持ちの間で揺れ動きまわります。特に保育所や幼稚園に通いはじめると集団生活の緊張も加わり、子どもの親に甘えたい気持ちが強まり、このような時一日止めた指しゃぶりやおなじみの毛布の端をしゃぶるなどの行動が多くなります。たいてい新しい環境になれてくると自然に減っていくものですが、短時間でも子どもを抱いてあげたり、子どもと身体的に触れ合う時をもつことも大切です。

A

わが家の育児メモ

絵本・テレビ・ゲーム

Q

うちの子は赤ちゃんの時からテレビが大好きで、番組に関係なくテレビがついているだけで御機嫌でした。今4歳になりましたが、最近ではビデオの操作も覚えいつもテレビを見ています。静かにしているので困ることはないのですが、時々これでいいのかと心配になります。
(4歳男児の母)



A

テレビは私たちが普段身近に見たり経験できないものを放送するので、番組によっては大人も子どもも、とても興味深く楽しめるものの一つです。今では生活の中で不可欠の存在になっていますが、赤ちゃんの時からつけっ放しの状態はさけた方がいいですね。テレビを見る時は、家族みんなで話し合い、はじめをつけ、番組を選んでやったり、時間を決めるなどの配慮が必要です。乳幼児期は特に言葉の発達する大切な時期です。テレビからの一方的な刺激ばかりではなく、体を動かして遊んだり、絵本を読みみかせたり、語りかけるなど、親子でふれあえるものをたくさん与えてやりたいものですね。

ワンポイントアドバイス

お子さんがテレビを見る時は、お母さんもなるべく仕事の手をやすめ一緒に見るようにし、テレビに子守りをさせるような状態はさけた方がいいでしょう。同じ番組を一緒に見ることにより、お子さんがどんな事に興味があるのか把握できますし、その事から親子のふれあいにも発展していけるでしょう。「○○ごっこ」など男の子も女の子も大好きな年齢ですし、自然界の生き物のことなどにも興味を持てる頃ですので、お父さんやお母さんも童心に返り一緒に楽しんでみてはいかがでしょうか。

うちの子は間もなく満2歳の誕生日を迎えますが、ことばの発達がおくれているようで、まだ「ママ、イナイ」、「プープーイッタ」とかいうだけで、同じ年齢の子どもさんに比べておそいようで心配です。

(1歳11か月男児の母)

Q

「ことば」の 始まり



1歳の誕生日頃になると子どもは、「ママ」とか「ウマウマ」とか意味のあることばを発するようになります。それから次第にことば数もふえ、「ウマウマ、オイシイネ」、「オテテ、パッチ」など2語文へと進み、子どもは自分の気持ちをことばで上手に表現することができるようになっていきます。でもことばの発達の面でも個人差は大きいのです。全般的に著しい発達の遅れがない限り他の子どもさんと比較して一喜一憂せず、たどたどしい表現でも子どもの表現したい気持ちを十分にきいてあげることが大切です。

A

ワンポイントアドバイス

育児書や発達心理学の本などには、子どもが何か月になると「ウマウマ」などの一語文から「ウマウマほしい」、「ウマウマあった」などの二語文に移っていくとか、何歳になると名詞や動詞はいくつ位使えるようになるとか記されていますが、およその目安としては参考になるでしょう。しかしことばの発達にとって大事なことは子どもの中に「伝えたい気持ち」が起こり、「きいてもらった喜び」を経験することです。ことばの数や形式にあまりとらわれずに、ことば以前の親子の情緒的コミュニケーションも大切にしましょう。

いっしょに 遊ぼう

Q

生後6か月になる男の子です。最近声かけをしたりすると、手足をバタバタさせて喜ぶようになりました。目覚めている時間も前より長くなったので何か相手をして遊んでやりたいのですが、赤ちゃんの遊びってどんなのがあるのでしょうか。

(6か月男児の母)



A

6か月位になると音のする方を見たり、自分の目に止まった物に手を伸ばして取ろうとするなど、かなり自力での行動が遅くなる頃です。膝に抱いて視線を合わせながら、声かけをしたり手をたたくみせるととても喜びます。また、身近かな玩具で音を出して見せたり、腹這いにさせ小さなボールなどコロコロころがしてやったりと、本当に単純な遊びがいいでしょう。さらにおむつや衣類の交換の時、話かけながらお腹のあたりを軽くマッサージしたり、手足を屈伸させたりするだけでも赤ちゃんにとっては楽しい遊びになります。可愛い赤ちゃんのために愛情込めてたくさんかかわってあげましょう。

ワンポイントアドバイス

1歳近くなると、簡単な手遊びをやってみせたり、膝に抱いて手をとってやってあげると赤ちゃんはとても喜び声を沢山出すようになります。やがて部分的にまねてみたり、繰り返すようようになります。信頼できる親との遊びは赤ちゃんの心の貴重な栄養になります。お母さんもゆったりした気持ちになり次にあげた簡単な手遊びを幼い頃を思い出しながら一緒に楽しんでみて下さい。例○「おつむテンテン」○「げんこつ山のたぬきさん」○「二本ばしコチョコチョコ」○「イナイナイバア」○「おすんでひらいて」

1歳半の男の子ですが、歩き始めた頃から誰かれかまわず出会った人、特に子どもをひっかいたり、たたいたりします。相手が小さい子どもだと泣き出したりしますし、親もつい押えたり、叱ったりしてしまいます。

(1歳半男児の母)

Q

らんぼう・なきむし



歩行が自由になった子どもの世界は急速に広がります。この頃の子どもにとっては全てが新しく珍しいものですが、まわりの人びとや、あるいは事物とどのようにつき合えばよいのかまだわからないのです。

この頃の子どもは何にでもさわり、ためしてみます。親にはひっかいたり、たたいたりと思える行為も、子どもにとっては挨拶や相手を知るための行為なのでしょう。子どもは試行錯誤しながら人とのつき合い方も学んでいきますが、相手の子どもが泣き出すような場合は「痛かったんだって、ごめんね。」と親も一緒にあやまってあげたらどうでしょう。

A

ワンポイントアドバイス

泣くことは、笑いや怒りと同じ感情の表現です。1歳数か月頃の子どもは言葉で言えないことを泣いて自己主張するのです。初めは泣くしかできなくても、大きくなるにつれて表現力がつき、他の方法で気持ちを伝えるようになります。泣いている時、今は「くやしかったのね」と気持ちを分かってあげるだけでいいのです。

早期教育

Q

隣の子は、3歳で英語を習っています。漢字を書ける子もいます。うちの子は、まだ、ひらがなの読み書きもできません。

今のうちから何かさせておかないと学校に上がってから苦労するのではと不安です。

(4歳女兒の母)



ワンポイントアドバイス

周囲に流されて親が早期教育に駆り立てられて不安になったり、あせったりすることは禁物です。

子どもから「なぜ」「どうして」「できるようになりたい」という思いが出てくるような環境づくりに努めましょう。

子どもには、一人ひとりの子どもなりの学び方があります。その子の興味や関心の持ち方に添って相手をしましょう。

A

子どもは教えればかなりの事ができるようになる場合があります。

けれども、無理に背伸びをさせたり、生活とかけ離れた形で教え込まれたものは、長続きしないばかりか、「○○嫌い」を作ったりもします。

先のことを教えるよりも、幼児期には好きな遊びをたっぷりさせる事が大切です。生活経験が豊かで十分に遊び込むことが学ぶ力のもとになります。

生活や遊びの中で、子どもの興味や疑問にいけないに答え、知る喜びや学ぶ喜びを味わわせましょう。

うちの子どもは、外が大好きです。ちよつとのすきに家から飛び出し、どこにいったんだらうと心配しているうちに帰ってきてほっとしますが、それもつかの間、また出ていってしまいます。何だかせわしく目が離せません。
(3歳男児の母)

Q

こころの基地



3歳頃になると、子どもの活動範囲は、家庭から戸外へと広がります。好奇心も旺盛になり、友だちと遊ぶことの楽しさ、面白さも分かってきます。遊びに熟中している時であっても、あるいは小さな争いを起こして不安になったりしても、すぐに田親の所に駆け込んできて、気持ち満たされると安心して、また出かけて行くということを繰り返します。

子供にとって親は「田港」であり「こころの基地」なのです。おとなはその時々の子どもの気持ちを受けとめてやり、あたたかく見守りたいものです。

A

ワンポイントアドバイス

幼児にとって遊びは、生活そのものであり、遊びが仕事です。よく遊べる子は健康であり、遊ぶ子ほどよく育つといわれているように、遊びは幼児の成長にとって大切な学びの姿なのです。

子どもは、自分のしていることに対して、おとなの反応を確かめて「ああやっぱり〜してくれた!」と安心し喜び、また遊びに没頭するのです。子どもは、おとなの注意深いあたたかいまなざしに見守られて成長していくのです。また安全な遊び場を与えてやることもおとなの役割です。

ほめる・しかる

Q

子どものしつけには、ほめ方やしかり方が大事だと言われていますが、ほめ方やしかり方のコツを教えてください。

(3歳男児の母)



ワンポイントアドバイス

①どんなときしかるか

・それが子どもにとって危険なとき・車中を走り回るとかあたりに迷惑をかけるとき・人の心を傷つけるような言動をしたとき、ことに生命に係わるようなことをしたときは、体罰もやむをえません。

②しかり方

・感情的に親の気分でしからない・しかるわけをきちんと言い聞かせる・抱きしめる思いでしかる・その場でしかる・突き放したしかり方をしない・くどくどと繰り返さない・一貫性をもったしかり方をする。

何よりもしかるよりもほめることを多くして子どもに自信を持たせるようなしつけ方が大事です。

A

どの親にも、うちの子はこんな子どもになって欲しいという願いがあります。子どもが親の願いどおりの言動をしたときはほめ、よくないと思っていることをしたときはしかりますね。ほめる、しかるは車の両輪のようなものでどちらも大切ですが、この頃しからない親が増えて、わがままに育っている子どもが多くなっているようです。子どもはほめられて自信を持ち、また続けてやろうと意欲が湧き、しかられて、これからはやめようと思えます。親の善悪の考えが基本になります。親自身の生き方がまず問われます。

日中働いているので、あばあさんに見てもらっていますが、私がしかるとすぐおばあさんのところに逃げていき、わたしのいうことを聞いてくれません。どうしたらよいでしょうか。
(4歳女児の母)

Q

おじいさん・おばあさん の力



こどもの将来のことを考えると、親としてしっかりしつけなければと思い、一方、おばあさんはしつけよりかわいさが先になっているんですね。

子どもがおばあさんになつき、おばあさんも孫をかわいがって共に暮らすことはしあわせなことです。

ただ、考えたいことは、子育てのしつけについてその表れ方は多少異っても基本的な考え方は同じ方向をめざして一貫性をもって当たることです。何よりも家族の方々の人間関係を大切に考え、それぞれの持ち味を生かしていくように努めたいものです。

A

ワンポイントアドバイス

祖父母が孫の育児に関わる意識調査によると、子どもの面倒を最もよくみってくれるのは母方の祖母であり87.7%に上っています。また、父方母方の祖父母の半数以上がそれぞれみてくれると答えており、長年働いていたため自分の子どもの育児に参加できないことの多かった男性が、定年を迎えて祖父という立場から孫の育児を援助している様子がうかがえます。常日頃お互いがざっくばらんに語り合える家庭の雰囲気づくりに努めましょう。両親も祖父母も生き生きとして、日に日に成長していく子どもを見守りたいものです。

参考文献：「子育てに関わる意識調査
—育児の世代間交流—」
総母子衛生研究会（平成4年）

家族、 おとなり、 近所

Q

近所に同じ年ごろの子どもがないので、友だちと遊べません。みんなと仲よく遊ばせたいのですが。
(3歳男児の母)



ワンポイントアドバイス

現在、少子家族や核家族が増えて、子どもはいろいろの人と仲よく交わることが少なくなりました。そのため、人間関係失調というか、人みしりをしたり消極的になって社会性が育たない子どもが増えています。子どもが友だちと遊べるような環境づくりを工夫したいものです。地域でのラジオ体操やお祭り、ハイキングなどのいろんな行事に参加してみましょう。共に行動しているうちに、子どもは次第に積極的になって皆と一緒に遊び、友だちもできるようになり、また、親も親しい仲間ができるようになります。

A

子どもの数が減ってきたり、子どものいない夫婦が増えたりして、この頃あなたと同じような悩みを持つ親の声が多く聞かれるようになりました。

幼児の遊びは生活であって毎日が遊びに始まり遊びに暮れるものです。遊びによってその楽しさや面白さを知ったり、友だちと遊びながらがまんすることや許すことを学んだり、また、自己主張もできるようになります。なんとかして近所の親同士が親しくなるようにし、子どもの友だちをみつけていくように努めたいものですね。

保育園や 幼稚園

3歳になるまでおばあちゃんに日中見てもらっていた男の子ですが、遊びも活発になり家の外に出たがるのでおばあちゃんの手におえなくなり、この春幼稚園に入園させました。

最初の1か月位は喜んで登園していたのですが、この頃行く時渋ります。どうしたらいいのでしょうか。 (4歳男児の母)



家族の愛情に包まれて育ってきた息子さんは、今度は家の中から外へ向う心の芽が順調に育ち、体力的にも逞しくなり行動もそれに連れ活発さを増してきたことと思われれます。幼稚園では、大勢の同年齢の子と一緒に生活しているので、最初のうちはものめずらしさと、新しい経験の連続できっと毎日楽しく過ごしていたことでしょうか、反面おばあちゃんと二人の時は思い通りになっていたことが、友だちとの関わりの中で思い通りにならなかつたり、集団の枠の中でのきまり等に窮屈さを感じ始めてきたのではないのでしょうか、これはお子さんの社会性が育っていくとても大切な体験です。幼稚園の先生と連携をとりながら、この壁を乗り越えさせてあげてください。

ワンポイントアドバイス

子どもを育てていると、ささいな事で親は悩んだり喜んだりするものです。幼稚園や保育園に通うお子さんをお持ちの方は、その悩みや喜びを親だけのものにしないで、幼稚園や保育園の先生に伝え、一緒に子育てをしているという考え方ですすめていくことが大切です。家での様子や園での様子を伝え合う中で、お子さんに対する共通理解を深め、お互い信頼関係が持てるようになると、困った事が起きても解決の糸口がみつけやすく、お子さんにとっても安定した状態が保てることでしょう。

家庭教育 ビデオ教材の 活用を

岩手県教育委員会では、昭和61年度から21世紀を担う子ども達の健やかな成長を願い、乳幼児、小学生、中学生、高校生を持つ親を対象に、子育てに関する学習情報をテレビ放送を通して提供してきました。放送内容の一部はビデオに収録し、いつでも視聴できるようにしています。（1本15分の番組です。）

本冊子では、乳幼児向けのビデオ教材を紹介します。どうぞ、ご利用願います。

平成8年度教育ビデオ

回	タイトル
1	妻の妊娠！ボクもオヤジになるんだな
2	新来/VVの育児講座・乳児編
3	新来/VVの育児講座・幼児編
4	ひとりっ子っておずかしい？
5	明日まで待てない乳児の病気
6	気にしがちな発育の遅れ
7	手に負えないのはうちの子ばかり？
8	叱りますか、ほめますか？

平成7年度教育ビデオ

回	タイトル
1	こちらすこやかダイヤル・お父さん出番です
2	子育て拝見
3	コチョコチョしちゃうぞ
4	こどもたちの遊び場発見
5	こどもの病気は、いま…
6	ことばの芽
7	こちらすこやかダイヤル・乱暴してしまった
8	明日に向かって

平成6年度教材ビデオ

回	タイトル
1	赤ちゃんからのメッセージ
2	子供の感染症
3	こちらすこやかダイヤル・育児質問箱1
4	おいしく食べよう
5	お田さん、もつと…
6	自然の中で遊ぼう
7	こちらすこやかダイヤル・育児質問箱2
8	三つ子の魂百まで

平成5年度教材ビデオ

回	タイトル
1	はいはいとあんよ
2	なんでも食べられるよ
3	おでこが熱い
4	おつとと、ごつつん
5	あのね、お田さん
6	こちらすこやかダイヤル・幼児教育を考える
7	こちらすこやかダイヤル・どう、しつけたらいいの
8	楽しく、子育て

平成4年度教材ビデオ

回	タイトル
1	あんよはじょうず
2	なんでも、だいすき
3	すこやか相談・育児質問箱1
4	もつと、きかせて
5	すこやか相談・育児質問箱2
6	お日さまとなかよし
7	お父さんも子育て
8	すこやか相談・育児質問箱3

平成3年度教材ビデオ

回	タイトル
1	はいはい、たっち、あんよ
2	こんにちは「ことば」
3	ふれあい家族
4	虫園0作戦
5	すくすく相談
6	お花さん、虫さんもなかよし
7	どろんこ だいすき
8	上手にほめる、しかる

ビデオは、県立生涯学習推進センターおよび県内各教育事務所、県立図書館にありますので、ご覧になりたい方は、どうぞお問い合わせ願います。

シリーズ たくましく育つ子

**家庭教育
ビデオ教材の
問い合わせ先**

生涯学習推進センター	☎ 0198-27-4555
盛岡教育事務所	☎ 019-651-3111
花巻教育事務所	☎ 0198-22-4981
北上教育事務所	☎ 0197-65-2739
水沢教育事務所	☎ 0197-22-2891
一関教育事務所	☎ 0191-26-1419
千厩教育事務所	☎ 0191-52-4981

大船渡教育事務所	☎ 0192-27-9910
遠野教育事務所	☎ 0198-62-9939
釜石教育事務所	☎ 0193-25-2711
宮古教育事務所	☎ 0193-64-2222
久慈教育事務所	☎ 0194-53-4991
二戸教育事務所	☎ 0195-23-9210
県立図書館	☎ 019-624-2515

すこやか ダイヤルを 友達に!

子育ての悩みに 電話でアドバイス

子育てをどうしたらよいか、困っている方はいませんか?
子育てに関する情報のどれを信じたらよいか、迷っている方はいませんか?
1日中、家の中に閉じこもって、話し相手もないという方はいませんか?
自分だけが社会から取り残された気分で、落ちこんでいる方はいませんか?
子どもを取り巻く家族のあり方で悩んでいる方はいませんか?

そんな時、「すこやかダイヤル」に電話してみませんか。

子育てのことなら、何でもOKの電話相談です。専門の相談員が話し相手となり、悩みをいっしょに考えていきます。もちろん、匿名でもかまいませんし、話したことについての秘密も守ります。どうぞ、お気軽にご相談ください。

「はい、こちらは「すこやかダイヤル」です。
どんなことでしょうか」

子育ては…
「すこやかダイヤル」で

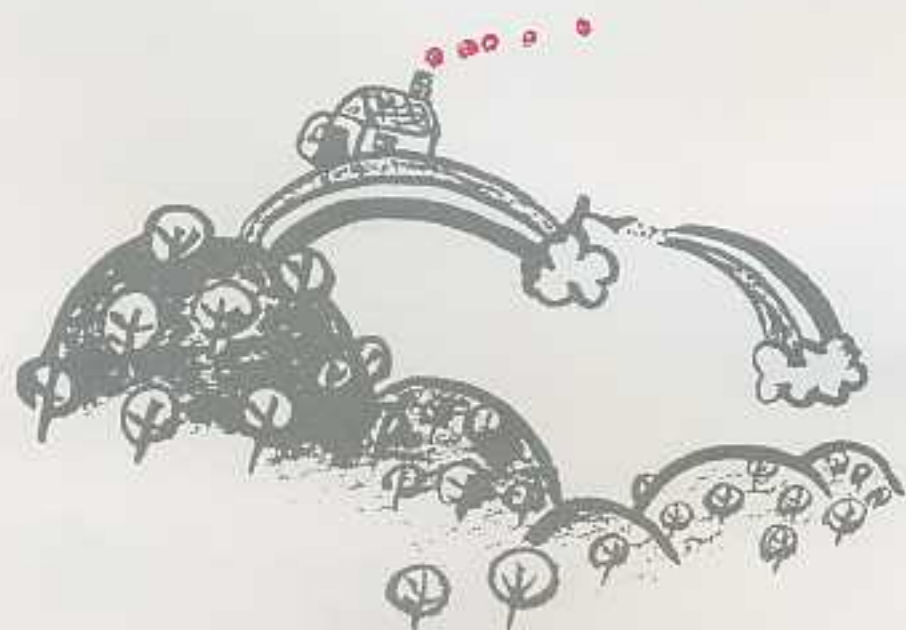
子育て相談電話

すこやかダイヤル
0198-27-2134

相談日時 月～金曜日
10:00～16:30

ただし、国民の祝日、
年末年始を除く





家庭教育資料「すこやかばんざい」作成委員名簿

氏名	所属等	分野
◎佐藤文子	岩手大学人文社会科学部教授	心理学
中井博史	県立中央病院小児科長	医学
沼崎定子	県警察本部少年巡回指導員	家庭教育
長谷川妙子	元盛岡市教育研究所教育相談員	家庭教育
松尾志保子	能善友隣保館附属善友保育園主任保母	幼児教育

(◎委員長)

(五十音順)

平成8年度家庭教育充実事業

「すこやかばんざい」～子育てQ&A～

初版発行 平成6年9月

2版発行 平成9年2月

岩手県立生涯学習推進センター

花巻市北湯口第2地割82番13

☎ 0198-27-4555

子育て相談電話

「すこやかダイヤル」

☎ 0198-27-2134

相談日時 月～金曜日 10:00～16:30

〔ただし、国民の祝日、
年末年始を除く〕

気軽にご利用ください（匿名でよろしいです）

発行：岩手県立生涯学習推進センター